

紀』によると、恭仁宮の造営開始は、天平一二年二月からとされているが、その時期について、この木簡はやや微妙な問題を提示する。すなわち恭仁宮の造営はもう少し早い時期から開始されていた可能性もあるかもしれないのである。

もともと郷里制以後の郷制下においても、郷と書くべきところを里と記す事例が若干ながら存在する。また郷里制施行時の貢進物が、一年前後を経て、恭仁宮の地で消費され、その付札が遺棄された可能性も大いに考えられる。したがってここでは、恭仁宮の造営開始時期について、断定することを避けた。

(3)の蒜はノビル・アサツキ・ニンニクなどの総称。大蒜の記載と、下端部が尖っていることから、付札である可能性が大きい。

なお木簡や削屑のほか、二・八点の墨書土器が出土している。

「是人」などの人名、「□宅」「角家」「□殿」など、住居や建物を記すものが多い。「□宅」は数点ある。□とした字は、筆画は明瞭であるものの、文字を確定しがたい。後考に俟つ。

9 関係文献

京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報（一九九七）』（一九九七年）

（1）7・9 鍋田 勇
（8） 和 田 萃

木簡研究 第一八号

巻頭言

一九九五年出土の木簡

永田 英正

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十五坪 平城京跡 興福寺旧境内 大乗院庭園 藤原宮跡 藤原京跡 飛鳥京跡 長岡宮跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安宮内酒殿・釜所・侍従所跡 大坂城跡 大坂城下町跡 森の宮遺跡 長原遺跡 四天王寺旧境内遺跡 長曾根遺跡 入佐川遺跡 宮内堀脇遺跡 祢布ヶ森遺跡 香住エノ田遺跡 神戸大学医学部附属病院構内遺跡 大毛池田遺跡 駿府城三の丸跡 駿府城跡 御所之内遺跡 葦山反射炉 大師東丹保遺跡 甲府城関係遺跡 居村B遺跡 北条小町邸跡 宮町遺跡 南滋賀遺跡 西河原森ノ内遺跡 屋代遺跡群 大猿田遺跡 山王遺跡 市川橋遺跡 大日南遺跡 志羅山遺跡 西太郎丸遺跡 磯部カンダ遺跡 横江莊遺跡 加茂遺跡 豊田大塚遺跡 宮町遺跡 五社遺跡 寺町遺跡 佐渡金山遺跡 佐渡奉行所跡 桂見遺跡 岩吉遺跡 米子城跡 八遺跡 山崎一号遺跡 長登銅山跡 小倉城跡 大宰府条坊跡 呉服町遺跡 松崎遺跡 下林遺跡Ⅳ区 昌明寺遺跡 一九七七年以前出土の木簡（一八）

塩田城跡
ノヴゴロド白樺文書
長屋王家木簡三題
算木と古代実務官人
書評 沖森卓也・佐藤信著『上代木簡資料集成』

B. J. ヤニン
森 公章
鈴木 景二
大隅 清陽

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円